はまかぜ記者が
みなと舎の扉を叩く！ トントン♪

みなと舎物語

～重症心身障害児者と愉快な仲間たち～

みなと舎 検索

メンバーさんの人生と人生支援

第8回

みなと舎の施設利用者である重症心身障害児者（メンバーさん）と、みなと舎で働くスタッフや、ご家族、地域の方々など愉快な仲間たちとのストーリーを毎月ご紹介するコーナー。

横須賀市初の重症心身障害・重度重複障害者のための通所施設「ゆう」。その誕生秘話など、社会福祉法人みなと舎　理事長の飯野雄彦さんに伺いました。

みなと舎誕生!!

みなと舎「ゆう」が開所したのは１９９７年です。みなと舎の歴史は、それより前にさかのぼります。重症心身障害の子供たちが、養護学校を卒業した後に通える施設・場所がありませんでした。そこで、ご家族の方々が「この子らしい生活を」という願いをこめた地域作業所「こどものへや」を立ち上げましたがたが、５年間での閉鎖が決まっていました。

施設がないなら作ることができないかというご家族の熱い想いを受け、通所施設開所の活動がスタートしました。ご家族の方々も開設資金を出し合うなど、多くの方々の協力を得ながら、みなと舎「ゆう」が誕生しました。

社会福祉法人みなと舎
飯野雄彦（かつひこ）理事長

メンバーさん♪

重症心身障害とは、身体障害の最重度と知的障害の最重度の症状が重なっているという意味があります。話すことや走ることができません。

現代の社会は健常者が中心となっていますが、どんなに障害の重い方たちも同じ人生の重さです。話さない人生、走らない人生もあるのです。

人生をゴムひもに例えると、障害のある方のゴムは細くてデリケート。慎重にめいっぱい伸ばして生きています。健常者のゴムは太くて丈夫ですが、伸びる可能性の半分ぐらいしか伸ばして生きていないのでは？と感じる事があります。だから彼らの『力いっぱいの生き方』を見ると励まされます。勇気をもらいます。自分たちは可能性があるのに努力もしていないと気付かされます。

ご家族の方で「この子がいるからこの人生が充実した」という方がいました。メンバーさんの存在に無限の可能性を感じています。

人生と人生支援♥

みなと舎の出発点となったのは「どんなに障害の重い方たちにも地域生活の視点が必要である」という考えです。障害のあるなしに関わらず、地域社会の中で生き生きと自分らしく生活できるように支える事業を展開することが、私たちに求められています。

メンバーさんの人生を支援するという事は、メンバーさんひとりひとりの存在を理解し、当たり前の生活を共に過ごしていくという事です。メンバーさんの息づかいを感じて、言語のない言葉を受けとめ、きめ細やかな支援を続ける必要があります。

現在、みなと舎で働く職員は約２００名。近隣に在住の主婦の方たちも大活躍しています。子育てや家事をしながら働く方も多く、柔軟な勤務時間体制をとっています。スタッフはメンバーさんの「本人中心支援」を行うために、メンバーさんの波長に心を共感させます。お互いに信頼を得て、一生涯を通して寄り添う「人生支援」を目指しています。

★次回１／13号
いきいきスタッフに注目！